



小川為
治著述
開化問答

下

洋学文庫
文庫8
C 162
2





小川為 治著述 開化問答卷下



開次郎

さき一服やらうりましたかふれうりまは法談義を
 ろめませうそつで今乃法論を當時政府に
 法取立なきに諸運上ハ皆無理なきに
 是迄通り百姓の諸年貢をありしを志をなれハ法
 仁政てやいといひたまはれども失禮をなすはれ
 が第一の心得建とりつゝのてきお何故とりつゝ

開化問答 卷下

先刻か口が酸くある不と法話を通り今天子様乃法
政事を施し終ふハ皆民百姓我乃為ておぼるべき年
貢運上を法取立なきも矢張民百姓我乃為ておぼ
るそのまけハ甚知り易きまじらふ今上ハ政府といふ物が在
く世乃中を取締する者ばなれハ世問ハ暗闇あり押
込盗賊ハ勿論人を殺しても然るまじらふ我物を
奪ハせざるも訴へるとも法がぶらまけられハ金
銭を貯へるまじらふ田地畑を存持するまじらふ
出来ハ實ハ弱る人ハ詮方なく饑死すまじらふ

小落入まりせし若し一試ふられらの害を治せん
思へハ夥多乃金錢を概ち盗賊乃番人や田地
乃番人中ハ大勢召抱へるおき始終心配しハ氣を
附り居たりせしハや外まひおれりかぐる患ひも亦
萬民枕を安く家業を營まれるハおれ上ハ天子様
りまじらふ政府ハ法役人が偽りそれハ法政事を
施し終ふゆゑ乃事あり實ハ些少の年貢運上を
出しかるハ大才於惠を受ると思へハ世乃中ハ政
事不ぞ安き物ハおぼるまじらふ世乃中の侍りハ

月七日問答 卷下

何事をすれどもおれく乃入用がせくすハヤクぬ苦
おく天子様の治政事をやまぬ諸役人の月給
おろ紙筆些末の物に至るまでの入用ハ日本國中
ハ割合出させざる不任法ハおろ何故おれ
を國中惣躰より出させるとふりあれ色々の仕事
ハ日本國中乃人ハ關係たれ仕事ふくたかろ大仕
事をせけりおき人等が大勢寄合せりたとき混
雑のまじり纏りが付ぬゆゑ天子様治一人不任頼
たりけり政府ハ人民の仕事を取扱ふ場所天子

様ハ請負人乃頭取ておろおれ政府がせられハ
せら乃仕事を銘々各々一分引受取扱ふるぬ
おろ年貢運上を出す恰も己のすむ仕事
を人ハ頼みおれ入費を辦へると同扱ておれ
すろ又政府乃惠を受るる百姓町人皆同扱とふ
今まも百姓の年貢を出せハ實不理ふられぬ
るおろていおろ人らおれゆゑ追く百姓が耕作を
まじり職人商人ハ業を博ト終り産物の出来
がすくなくなり随て職人商人の家業も衰微す

了たして、たきる元来田地を耕作し、一年千兩の
 收納を得る百姓が百兩乃年貢を出せ、商人職人ハ同
 じも仕事をし、千兩乃儲ある商人職人ハ同
 じく百兩乃年貢を出し、苦ておさるるれ
 けハいと知れ、おさるる百姓丁人も同様に
 政府乃恵をうけ、同様に日本乃土地に居住する、同様に
 日本乃権利を保ち、皆同様に安穩に家業を營
 むゆきて、おさるる百姓乃年貢を出せ、ハ
 實に不公平あり、おさるる終に國乃產物に表徴す

成行あり、おさるる政府あり、租税を
 收納する有様を話し、先租税ハ二種あり、別を
 多し、法取上あり、事でおさるる一を私有税とし、是
 ハ人乃家産に付し、取上り、運上あり、田地家作乃類
 乃運上をいふ、一を物品税とし、おさるる絹茶蠶卵
 紙乃類、産物、おさるる運上をいふ、物品税ハ人
 間必用乃品物あり、いとらざる規則あり、そのおさるる玩
 物乃類、奢侈に屬する物あり、ハ重き運上を取ら、
 ておさるる壁へハ五穀紙油乃類あり、ハ運上をとら、
 四

問答
 四

一、金銀乃細工菓子酒煙草乃類之居寄場か
 一、坐敷娼妓藝妓杯わハ重き運上をとるはとておさる
 何故おさる乃物かハかく重き運上を取るといふは
 此乃物ハ畢竟人乃情を慰る事也乃用をいたし
 へおさる此物がおさるとして人間乃生活おさるは
 ありはけしおさるよく、勘考し見ると無益な属
 此物ておさるまじし、今日乃場合おさるは身ら乃物
 を廢止しはけしハゆゑ只是等乃物と重き
 運上を取立國用を助るはとておさる殊に貸付敷渡

世娼妓藝妓の属ハ遊民とらふと世間乃為小何乃益も
 なく、おさるはけしはておさるまじし、無理ふその家業
 を禁止し、當人乃自由を妨るはけし、落入政府ふ
 濟ぬはゆゑ、殊更重き運上を取立自然正強
 乃家業を營むゆゑ、おさるはけし、前乃法
 話乃通り日本中の人ハ政府乃為小年貢運上を納
 るハ詰り已乃仕事を天子様へ傳頼し、おさるは
 入用を辨へるは、おさるは銘の家産乃大小、從ひ公
 平、割合出銀するハ、當然乃理合ておさる、且天子様

月夜月夜
卷下



意常
悦吃
生

六

月夜月夜
卷一



口性理大全

月落
姑蘇
江相

ハハ色を法取立ぢき進そも法自分様乃榮耀栄花
 不法用るぢきさる日けハ更々なく法自分さまハ宮内省
 とハ法役所乃法賄ひま一年終六十萬兩位乃法
 くらして大さるナント勿躰なきそハ法儉約てハ大さ
 りませんかその餘ハ悉く政府乃入用ヲ譬へハ大蔵
 省ありハ農業を勧め廢物を殖中通用金を製造
 世間乃融通をよく一年貢運上を取立國用を足す
 等乃入用があり文部省ありハ世乃人乃學問を勧め
 智識を明小させ人乃幸福を増させんと世話する

入用かぶぢきその他諸役所も小まふそ進くの受持
 ホありそその仕事を行ふ費用ハ皆銘々よを納め
 各年貢運上まき辨一らあてぢき名なきは足下乃
 彼是法論一ぢきと理窟ハま僻論ま正真乃
 道理をまかきぬゆえかと思ひ外

⑤ 舊平

段々との法まらだきよく吞込ま僕ハ口
 を噤で啗るまけハハゆきませんそ進ハ人だといふ不
 交易乃あてぢき僕乃考へハ天子様ハ法直ハ

法政事をなさるる中より小ありしを是迄公方様乃法可
 愛かりちきつ、西洋人等ハ直ふ法掃攘小なりたるう
 と思ふ樂んで居外しふ矢張以前の公方様と同
 事なりあまけ小法一新以來ハ交易場乃数も殖え當
 時てハ丁度五ヶ所ておさる ナントおさるハ更小合点ハ
 行ぬ大としてハおさるませんハある方乃法活小元来ハ
 の日本とらん國ハ神國ておさるわ日本入乃知悉と
 りふものハ中々西洋人等乃およびもたないとして物事
 何も角も十分小備へ何一不足乃ふい世界随一乃國

どろろておさるるそめて慾乃深い西洋人等ハ已が悪國
 て物事不足だらけ物どか世界中心乃國々あつ唯
 一乃日本國を目掛く来く彼奴等乃國乃何乃益
 小も立身ハ品物を持渡り日本乃結構なる品を
 買出し追々日本乃諸品を置盡し結局小ハ日本國
 を乗取ふとよ不届千萬お企をまゝしめておさるる
 らせゆゑ近來諸色が掃底あり物乃直段ハいふ元
 乃二増倍ニ増倍おもあつ誰も彼もいふ難法
 居り外ハいふ家彼奴等乃仕業ておさるる小身不

是迄日本ハ日弁だけ何一不自由なく居る乃外
 國と交易がもどまつ諸色高直小なり下か難
 易せねば居らばぬとのまゝ交易ハ自分乃餘分
 る品物を以て自分より思ふ品物と取替へるま
 とでござるさきと世乃ひらきをのめ乃交易ハ
 ちゆる物と物とり取替へる譬ハ穀屋乃米八を
 己の餘分米を以て紙や乃半四郎乃紙と取替へ
 織物屋乃杼助ハ己乃餘分織物を以て金物屋乃

鉄蔵乃又物鍋釜と取替へるかくをいめハ物と物
 との取替へる居た所が段々と不都合乃た
 の多きゆゑ又一乃知恵を生ず通用金といふ
 のを製造たすてけつて通用金があれば我餘
 分の品物を通用金と取替へおき何時も不
 一き品物を入用だけ求るとか出来りゆゑ以前と
 ハ百倍乃便利を増とたてがぎるさき通用金が
 出来りゆゑ賣買交易杯といふ名目も出来り
 賣買交易杯といふ事乃大本をたぬおとふた

せど矢張以前の物と物との取替ふ事お違ふ事
 まる人さき人さか日さ小入用なる品物を賣買す
 るハ矢張此の交易さ今でハ交易さ人さくハ西洋
 人と賣買する事乃松小の思ハ大いなる誤てボ
 ざる又西洋人と交易をせねばならぬとハ試小考
 するが人さき今さ小何か子細がある人さ日用
 品乃賣買の出来ぬや乃事件ハおつらバ各々乃
 難渋ハ勿論終小の世小人種が盡るや成行せせ
 ナント此等乃理合を法知人たさ世たさ交易ハ天道

様乃法趣意さ人問乃大利益とする物だとり事
 ハよくさありませうさ世ハ日本同士交易するも西洋人
 と交易するのハ只大きいと小さハ乃相建のささ理
 合ハ同一事さ天道様乃法趣意小後ハ人間の幸
 福を増さんための乃仕業てささるさ小頑固ある人ハ
 やせ日本ハ日本だけさ小一不自由さハ杯をささせ
 外ハ皆理をささぬ言葉でささる既小不自由ハあつた
 驗ハ天保年中乃饑饉を法考へささせ外ハの時ハ
 道傍小行倒る居る者が山乃やうふあつたとハ外さる

小慶應年中乃不作ハ外國米乃清蘆を以て一
 人も餓死するものハおぼろりません ナントおきてもか
 一ツ不自由ないとまをさせませうかおぼろり皆天道様の
 法趣意を守ると守らぬとよするおぼろり外今是
 小由考へて見れば天保年中乃饑饉ハ丁度一人
 者が常時親類や近鄰と交際す小居て病小罹
 りたる時誰一人看病するものもあらず終小死小陥大
 ると同様小誠小悲しいことではおぼろり人且人間
 とよそのハ段々開きく来る小後と物事乃全倚

さる乃を好む天性がある者どか唯一通り入用小物
 をかりてハ用が足りませんを一通り乃物をかりてす
 むとよハ洋小開多を國乃あてておぼろり今日入用を
 物かりかぞへてハ米味噌醤油新炭油乃乾練乃
 数品ておぼろりさきハ衣類杯も木綿で六へた乃が
 一二枚家居も巾乃桶小茅乃屋根小用乃足りると
 小よ自餘饒福小ちよ衣類も木綿小細つむき
 小縮緬と段々美物を善用一家居も木作り小

土藏土産より石作りと段々美室小居るまを好む
ハ古き天然ありて人間乃天性ておぎる壁へバ煙草
いふものハ昔一長長乃頃外國からとめり種がマ
たり九州邊あり作りそめりものありその後火災乃
恐があるといふく徳川三代の公方様乃頃ハ度々作
るまを禁止たれどもつひ不度止るおとが出来ず
今てハ日用乃一品より煙草煙草入喜世留乃款を
賣買しつて後世まする者數へ盡き人おとてハおぎる之
かそのお女乃櫛笄ちとの属ハ實小奢をきハめ

このて是皆世乃開きとあるしておぎるさつは船来
乃藥種砂糖鉄類羅紗西洋木綿時斗石銀の類
もま今今日乃日用物も今急不交易を法禁止不
おぎバ田舎ハおぎ東京杯ありハ忽ち支るものハ
沢山あるおぎておぎるさつハ政府より外國交易を法
開きおぎつてハ畢竟銘乃為不互不不き物を
取替へ物事を全倚し人間乃歡樂を増させん
くめ乃まとおぎ五ヶ所乃交易場てハおぎ不足不位
ておぎるさつ徳川家ておぎめく外國と交易を

清濁き小なるも頃ハ諸色が急不高直なり世乃
人かいろ、難淡を唱へま、たが亦の頃小あえてハ
物事不段、折合がつき、諸色も追く下落し誰一人
難淡を以者ハ、わんやうのなり外、之も皆諸品乃賣
方かよき所から元方乃人、ハ皆精を出し追、品
物乃仕出しハ、沢山小なるも、来とゆえ、其の末も
銘、精を出し、色、乃品物を製造へ外國と交易
ま、手ハ一人乃富むかりてハ、わんやう日本國中乃富小
り、遂、日本ハ世界一番乃富國小なるも、とみく、とみく

考へ登ハありあ、きま、と、おき、

六 舊平

足下乃法理解、外國と交易乃理合も、其の僕
乃是、追乃疑ハ、大抵、し、け、外、と、き、せ、ど、ま、じ、く、
引込、し、け、ハ、ゆ、き、ま、せ、ん、そ、ま、ハ、お、の、幕、政、府、も、
へ、學、校、を、法、取、建、を、ま、き、下、へ、學、問、を、ま、す、や、
話、ま、さ、る、學、問、を、ま、す、事、ハ、よ、い、事、だ、と、ハ、聞、く、居、る、外
、が、當、時、は、上、り、く、法、勸、を、ま、す、學、問、ハ、え、ん、も、横、文、字
、を、一、寸、見、く、ハ、蚯、蚓、が、乃、と、く、く、居、る、や、も、る、文、字

ちかり是迄乃學問ハ皆法度一あり四書五經採い
 ぶるのハ手ふとするものもやまきしものおとさうしと見ると
 日本乃是迄乃書籍より物ハ益小立ぬ物ておびる
 かなしも益小立ぬ物も今迄人々が珍重する書も
 儒者や學者を尊敬するにけりおびり外まひ
 きせハおせらハ政府て西洋おきりともろあつて
 彼奴等乃物もふあふらんよきまことだと思ひ大不妖惑
 きせくありともろていおびるんか
 開次序

成程此等乃疑ハ一億ハ清元乃や小聞ゆせど是ハ
 ハ深き理合乃あるおとておびる先文字よりものハ人
 の意を達し世乃中乃理合を知るため乃道具よくい
 る言ふ乃ありをさる物ておびるそせを漢土乃文
 字より物ハその数三萬六千ありおとちりきバあ文
 字を用るく用を足さんと思ふ者ハ文字を知り為不
 二年三年乃日数を費やさねハおとぬおとておびる又
 日本乃いろはハ四十七文字西洋乃横文字ハ二十六
 文字きせハ日本や西洋の字を知りハ一月もあつてバ

出来りりりありありの得失を考へてはむらかりき文字
乃為余斗る光陰を費やれハ真ハ無益なるよし
大ざるもと文字とり物ハ前ハ法話ト通り世の中
乃理を知る為乃道具なきハ恰も大工や左官乃鑿
鉋泥鍔扱と同扱を物てぶざる今大工や左官が道具
をかり沢山所持し居しとて家を作るよしと壁
を塗るよしとを志すむらかりハ用ハ立外まひ學問と
くも同トおといか程むらかりき文字を沢山知ことと
理合を志すねハ用ハ立ませんそ是ハ道具をかりの穿

鑿さく小二年三年費つひやハ馬廐うまがい乃上うへ痴あほう獣けものの親おや玉
ともやませりませ漢文字かんじ乃不便えびなとらておぎり又
學問がくもんハ唯ただむらかりき文字じふんを知り解かいハ古ふる文
をよみ和歌わかを詠えい詩しを作つくるよし世よ上うへ不實ふじつ乃なき
文學ぶんがくをのよしとてハおぎりませぬまはる乃文學ぶんがくも随
分人ぶんじん乃為なおちるよしとあせし古来ふるより世間よ乃儒者にうしや和
學者がくしやあるのり程ほどさまで何なにか尊たつとむべきものでハま
まぬ昔むかしハよ漢學者かんがくしや不世帯ふせたい持もち乃上うへ手てあるも
のも収さく和歌わかをよみ高賣たかうり不巧ふこう者しやなる町人

稀ておさるるそせゆ心ある百姓丁人ハその子乃學問
 不出精するを見そやがそ身代を持崩すそ人親
 心心配するこのもありそ無理もぬりけておさる
 べきその學問の實小遠く日用の間小合ぬ證據
 おさる今かざる變なき學問ハさそあき専ら勉むへ
 きハ人間普通日用乃學問ておさる譬へバいろは四
 十七文字を習ひ手紙乃文言帳合乃仕方算盤乃
 稽古天秤乃取扱等を心得るそ又そ人で學むべき
 簡條ハちたそそ多くおさる地理學ハ日本國中ハ

勿論世界萬國乃風土道案内究理學ハ天地萬物乃
 性質を見分そその働をさる學問歴史ハ年代記乃
 二ハ一物そそ國古今乃有れを詮索する書物經濟學ハ
 一身一家乃世帯より一國天下乃世帯の持やを説くもの
 修身學ハ身乃行ひを脩め人小交りまの世を治る身そ天
 然乃道理を述べたるものなり是等の學問ハ人乃貴賤小かそ
 一般の知るべき叶ぬものなりハすて小學問乃すそ知るべき
 小記載ハおさる何故そ進學乃事をさそでかざるぬそハ
 へハ寒氣乃強き時そそ寒きを防かんが為障子を閉

密く火を盛ふあり大勢群々居る皆かゝる以通
 上く鼻血を出すやうなるあはがさるべき空氣が流
 通せん炭素とり小物が外へ出ぬゆゑに究理學を志
 と人ハ志きふあり理を悟るまとしておぼる又人といふもの
 前日乃儲を貯へ今日乃生活をす苦乃ものあは
 無益なまとい一銭も用るん今日乃儲を満くおいら
 まく後日乃患不備くおぼるはあはぬあはておぼるもの理
 合を志るハ経済學を志る人ハ他人乃異
 見を受ふ及ぶ自然自分か質素儉約をするまとい

ておぼるナントおぼらハ皆學問乃力てハおぼりませんか
 其のあは百姓をば耕作乃為是迄乃仕方をおく改正
 一と方が取上高も殖え手数料もかゝぬと此等の事を
 考へるハ植物學地質學化學採入用をり職人なる事ハ
 此車ハ在來の造り方をおく改正した方が手輕く
 便利なるんか事考へるハ器械學入用
 ちり商人をせよ其の品物ハ何國乃出來るハ製造へる
 元手ハ何程位かり世間へ一年乃賣し高ハ何程位
 と此等のよしを考へるハ地理學物産學採入用あり

才多く其等々の學問ハ今迄日本人乃氣ハ附ぬよし
 あり皆西洋人乃考へ出しく事多し此等の學問を
 するハ何れも西洋乃翻譯書を取調べ大抵乃事ハ日
 本乃假名乃用を便し或ハ年少より文才あること
 のハ横文字をも讀ませ一科一學も實事を押へその
 事ハ就きその物ハ後ハ近く物事乃道理を知り今
 日乃用を達しする由するハ肝要である右ハ人間
 普通乃實學なり人々乃皆悉くたしあむべき
 心得である其の心得あつて後ハ四民も人乃厄奴ハ

ち乃家業を營み次第ハ繁昌なりつひハ獨立不羈の
 人間となるよし其の漢土乃學問ハ隨分よま
 るよしあり人乃為小なる會もあつて究竟
 理合ハ是程乃よしあはれし文字のむづかしく
 骨折り利益をも較せ到底利益ハすくなく其の
 今乃強ち法上より漢學を法廢しあまつた
 り事ハ多きりません只西洋の學問をこの方が日用の
 益なり身乃為あつて急專る身ハ法道守ま
 するもけり古來より學問の道ハ博を厭はれり

非あつ力があつて根柢乃よき人のその人乃了簡次
 第和漢洋ともひろく學ぶがよき一の事てふこと唯
 普通乃人の學問の理合を知るを專一して假名採
 りて用を足す方が便利ゆゑ法上てもあの法趣意を
 以て所へ學校を取設讀め易き文字もく人間日
 用乃為あつる學問を教へ人才を法育をささるあつて
 ちかふるそ斗を西洋人の奴惑さすて居る扱といふこと
 は畢竟學問の理合を知らざるぬ足下乃頑愚と申
 するのであつる

七 舊平

妙く足下乃法溝釋もく西洋乃學問を學ぶけはさ
 つわりとまかりまゝと名かゝる身小就くハもく一議論
 せねばあつぬまじかあつるそせハあの頃世間乃風俗を見
 るふこそ是迄乃家作を西洋風小作りあへ頭ハ散髪
 しく身軀小窄袖細袴を纏ひ食物ハ牛乃油煎が
 よい乃家乃煮附小志下乃とりあつ居る外ナシ是
 てハまゝて西洋人小隨後と名するところありあつ真
 小歎かハ一いふとてハおぎと人ハ是迄四是を人良しと

ハ神様乃罪かあたる穢ハ一い物だと日本乃人ハ誰も
 食ふ者ハあさむぬたあく薬食ハ猪サシ食へバ三日
 の間ハ神様へ手を合せる事も出来ぬ程乃去しつゝ
 多しである神國乃貴いといふるがあるといふもので
 かりりせきを此島でハやせ牛鍋とハ豚鍋とハ牛の
 乳とハスちんぐろかどろといひちらしその口を漱も
 せん神棚へ向ひて拜禮をしげるハ程拜禮を
 してしてちんて神様か承知なきせしめて罰乃當
 らぬハその人乃幸てあきる又家作りも是迄日本ハ日

本だけ小いところも調法を作る方もあり立派を作り
 方もぶざらそせをやせ煉化石との石作りたの
 無益ハ高い金銭を費中何乃利益がありませう唯
 其家ハ住居ハ一と鬚とし生ハやくハ西洋人を真似
 了上屋不カ功能ハあきり非すハ又衣服もさうだ冬ハ
 綿入夏ハ單物と日本人ハ日奉服で沢山用が足り居
 り外そせをせ乃生物識乃半生熟な奴等ハ今急
 小氣乃附くや、窄袖細袴を着用し蝙蝠傘を手
 小持驕慢を面付し、偶恒體乃衣服を着るる



竹葉

正真乃理合ハ更ハ知人なきはぬおとておさる先食物と
 者ハ畢竟身躰乃滋養ハ食ふにけしあてあんでも
 身躰乃為ふはる物を食ひるはせハぢぢぬおとておさる
 其を日本ハ食物と者ハ只口ふらまきを專一とて
 養生杯乃おとハ聊もかまひませぬせば日本人ハ根氣
 弱ク西洋人乃やハ蒸氣船や傳信機杯乃大發明を
 出する事ハ出来ませんさく第一身躰乃滋養ハはる
 至き食物ハ牛肉牛乳猪肉鳥肉の類もくおせハ西洋
 人が化學とやハ物乃原質を取調へる學問とて悉

く調へ聊疑のあはしめておさる又昔ハ獸乃肉を食ハ
 ぬとてハよく古ハをさかぬ人乃言葉でおさる既ハ古
 語拾遺とてハ書籍ハ大國主神乃營田乃日ハ実を以
 て田を作る人ハ食ハめ給へるさかおさる又人乃世と
 ありてハ仁徳天皇様ハ兔麻野乃麻の声を聞てその
 肉を召上る忍びたまはる孝徳天皇様ハ牛の乳を飲
 んたまひるは色を献せしものハ和薬使主しは民姓
 をたまはるハ杯ハハハ獸肉や牛乳を用る給ハハ澄
 據もく皆悉く書物ハ書載くおさる特ハ今ても信

州諏訪乃祭小ハ百疋の麻の頭を儲へるましがあきるま
れ神代の遺風ありいふへよを獸肉を忌まぬまらう
であきるまききバ穢まどい事ハ佛法ハ傳へ以末坊ま
等乃つひ出せーまらふく取不足らぬまらうてあきる又當
節家作まきる小強西洋乃風を真似るといふこけハ
あきる人乃ききい今追乃家他ハ第一火事乃患があ
る一第二養生乃法ハ適ぬゆえ身躰乃為を思ふ
人ハ追く西洋風ハまらるるまらるる又考へて法覽な
まきき是追乃土蔵を作ると西洋風乃善請まきると

つぎが安直ハ出来外かまきバあふも無益ハ金錢を
費やれと云理ハあきり外まらるるまらるるまらるる
かあきるもと流行病とよものハ水廻りや腐廢物の
大陽ハてまらるるの蒸發氣を人が嗅込まらるるから
まらるるまらるる又空氣とよ物ハ大切まらるるもの
空氣がまらるるまらるる人間ハ生活る居るまらるるが出来まらるる
まらるるまらるる家他ハつまらるる空氣乃流通するやう水溜
りや腐廢物乃清潔ハ掃除の出来まらるるまらるるへるが
肝要てあきるまらるるまらるる是追乃家他乃仕方まらるるハトント

むちやくちやく床ハ低ク風ハ入り以縁の下ハ水
 が湛へて居る腐廢物ハ家乃周圍ニ棄てありナント
 是下ハ年中藥と病人乃絶えぬハありキ人乃ありて
 ハガさる人カ窄袖ヤ細袴を著用するをヤカマシ
 くいつるがホサもきあえぬあしてあざる先日本乃大古
 一乃風俗ハ窄袖あり頭も惣髮の撫下けマ
 ざるあせハ古キ画杯も見え書物も澆撥が澤
 山ガさるるせハ中古より漢土の風ガ移り袖も長く
 一髪も結ハあふふとてあざる半髪野島頭とら

ものハ乱世乃陋キ風々々ヤやく三四百年以素乃
 ちしてあざるさる人といふものハ便利を專一ハせねバ
 ちとぬものあり譬へハ物を運ぶハ荷ふより車乃方
 が便利ト云々自然車を用ふるヤクハ成行と云々
 萬事ハ同ト事てあざるさるゆゑ長い袖のふつ
 ちやちや一々邪テあやると云々誰も便利ト云々窄袖を
 着用するはと云々さるさる不便ト云々長い袖の衣服を
 著ろといふと云々あつたせ乃中の仕事皆便利を舍る
 不便利と云々あつたせ乃ま戻らねバあり外キハさるさるハ百

姓ハ便利ニ鑿鉄を舎テ手を以テ田を代リ職人
 便利ニ鑿鉄を舎テ手を以テ家を作るナント云
 馬麻を舎テ誰モ承知するものハおきり外まひさ
 身カ散髪乃話小移りませう先散髪乃身
 養生便利候約ノ三徳がござる第一養生トハ人間
 乃頭腦ハ精神乃住居ト云く大切なと云らてござる
 身ゆ急天道様か造へるおぶく大丈夫ある骨を組合
 せ其上小皮を覆ひ又髪乃毛を覆ひ又其上小帽子
 を冠る是大切なる事と云くおさせざる自然乃妙理て

髪をそきそきを代を剃るか一日してそきそき
 一寸考へるも天道様乃意不悖不養
 生乃おきてハ一寸考へるも第二便利ト一寸他へゆく小
 髪結乃手を待テ我手よく撫付用が足り外
 第三候約ト油之結乃冗費を省き殊不夏向ハ髪
 付油の蒸費臭き匂ひもなく誠不愈快なるおきて、六
 ぎるナント是等あてハ散髪乃利益ハ多かりませうたつ
 うさく段々話通リ肉類ハ養生乃為小食ら
 ぶる殊不昔ト天子様と云め召上らせりたつ

西洋風乃家作窄袖散髮ともいふあれ便利養生
乃為てあざる且窄袖散髮ハ日本乃古風也強西
洋を真似るといふもあざり外まひききば互下乃
論ハ之本を正さぬ誤りく一つも理不合ぬとて
俵一才がせ乃半生熟先生ハあせりのりけも志
以只育替小開化めか人もありく真の物識乃眼
ハ序腹痛古との多いてあざりさせども自然と此等
の規則不カ香へハまゝ當人の為ハハハ程カ利益ある
とあく他乃偏屈不疑結く居る人ト幾等乃徳を

得るかあせません唯ねハハハ此等の人半生熟
浮薄心をやめ真實ハその利益を受るやうにた

八 舊平

足下乃法話ハ多ク法至極よく吞込ました僕も
今迄ハ人々道理ハ分らず唯昔一堅氣乃偏屈ハ
此頃乃まとい人でも皆異様あててさきやうと思
居たが今乃法理解で始り夢がさめましたさうか
のうまゝに下りも僕の胸不落るハ事があざり

ちんだらふ小蒸象車や傳信機の事ておぼろ世間
乃導をきく小鉄道と造る小人を生理ふふおれ
出来ぬ傳信機ハ女乃生血を銅録へぬるゆえ遠方へ
音信か通下る是皆切支丹乃仕法あり西洋人が此等
の事を日本人に見せ膽をつぬさせその虚小乗一日本
を奪ふといふ不届至極や計畧たし觸一外まで小
去年の春西國過る百姓一揆ハ此等の事か起たし
外僕もそん馬床をさといふからうとい思へども銅
録もく百里も二百里も先へ便りが出来二十里三十里

乃道を統一時か半時小往復を多く見せハ誠不ふ
ぎあゝ成程切支丹乃仕法かと思ひ外殊ハある物識
の法話ハ鉄道だの傳信機ハ西洋人乃國のやうやう野
山ハ幾萬里も果なき大國ハ重之變をせど日本乃
如き小國ハ無用な物どそのわけハ日本のぐらうハ盡
く海ゆえ急々用事ハ蒸象船より足りその回ハ日本
船より澤山まゝ文通ハ飛脚や一托のハ果か果まで
二十日の三十日より届くわけおせまぐそせあゝ沢山
便ふなり居りしとる今急ハ長崎横濱ハ相館の

便が一日乃中不知せりともくそき日ど頼む金、用事
もやく落入るとある無益な物ておきさるゝも無益の
で、なく商人などお大不為におきて、諸國の
相場が急におきさるゝゆゑ大坂乃米を東京へ移送れ
ば利があり、お前乃銀を上方へ送り、儲があり、
けておきさるゝ身をも鉄道や傳信機が出来、その土
地乃人、か忽、諸方乃相場を知り、ゆゑ他乃商人が買
出し、お行も安直にお夢ら、自然、高賣が衰微する
種だとは話をおき、おか、お法、お尤、お已、けておきさるゝ

人、おいたせ、鉄道や傳信機、お物、お切、お支、お丹、乃、お魔
法、おみ、おお、おを、以、おく、お日本、人、乃、お膽、おを、お挫、おき、おつ、おひ、お日本、を
甘、おく、おせ、おめ、おや、おく、おく、お西洋、人、乃、お惡、お斗、て、おき、おさ、るゝ、お身、おあ、る
方、乃、お法、話、の、通、り、お日本、おく、お無、益、な、物、多、るゝを、お政府、で、お
更、お小、法、存、おと、おく、おゆ、く、お日本、國、中、鉄、道、傳、信、機、乃
充、満、するゝや、おお、き、さ、るゝと、おあ、るゝ
誠、と、お痴、獣、と、お白、痴、と、お
おや、の、おお、き、おと、おく、おの、お舊、お平、お杯、おハ、お悔、おく、おく、お入
蓋、を、お齧、お碎、おや、お小、お覺、おえ、お弁
閑、次、身

舊正君矢禮多かゞ足下の法活ハ皆深き理合を知ん
 ますぬあとしておさる先蒸氣車よりみらぬハ蒸氣乃
 力て走る車より一合乃水を沸騰せ全く水がもるな
 是ハ一石七斗の蒸氣を以て即チ七百倍乃容ておさる
 かく非常ハ膨脹たる蒸氣を捕へシリンドルとてハ鉄管
 乃筒乃中へ入せその發力を以て藉て車を運轉させ
 了仕掛ておさる此の器械を仕掛て車を機関車と
 名付一乃機関車より他の車二十輛乃至四十輛と
 引おしておさるさき車乃製造ハ皆大丈夫より鉄乃

輪四の宛をつけし造り方ハ尋常の道を走るものと
 が出来ませんそせや急別小道を平なり車輪乃當り
 ところ小巾二寸厚サ四寸許の鉄を二條填め常ハ大
 の上を徑来するおと少くおせおつるや鐵道でおさる
 又傳信機といハエレクトルの氣力より音信を通
 する仕掛ておさる此のハエレクトルといハ氣ハ天地間乃
 萬物ハ傳つる一ツ乃氣より成る磁石が鉄を吸ふ
 ハ此力乃あるさきておさるさき傳信機乃仕掛
 ハエレクトルマグ子ツトといハ鍛鉄乃棒とガルバニツ

クハツテリ」と以銅と白鉛を入きたる箱しを以て
 エレキトルの氣力をおこし、その力を彼是乃間小より
 通すたる銅線のもろ小通すは道乃遠近小あり
 通す直小先方小通すもろあて此方あり銅線乃
 ちをイの字乃所へ當せバ先方あり同トくイの字
 をつき口の字へ當せバ口の字をろく變小その働自由
 自在あり恰も對面し話をもろちりてあつるさき此
 等の事ハ前小は信ト窮理學ト以學問を學ぶハ
 忽ちのちあつるナントかる道理を知人なるも、鐵

道や傳信機ハ切支丹でもやぐやぎてもあつる外ま
 ひ又鐵道ハ日本のやうめぐり海あり船乃便利かよ
 き國柄でハ無益だの音信ハ是追乃飛脚あり十分
 足りる傳信機ハ余斗ど杯ノ事ハミる偏屈な理を去
 らぬ人の言葉であつる第一西洋でも英國杯とつ國
 ハ日本より少し小き位なる矢張島國てあつる、その
 外國中惣郵政道乃長サを積む弦人と四千里も及
 び傳信機ハ何れも蜘蛛の細を張るやう引架し
 ありとのよとさきバ船乃便利よき國柄あり鐵道

傳信機ハ必用之物ト思ハシ外譬ヘハ東京と横濱の
 間を川蒸氣ヲト往來ス身ハ稍ク一日ハ兩度位乃ト
 して去ギテそレが鐵道が出来ト云ハ一日ハ十度ハ
 往復が出来外ナント便利トハ云フ人カ又音信ト是
 迄ハ稍ク一日一度のころガ傳信機ヲハ烟草一服
 吸ぬラチ返事ガ云ル實ハ便利ト云フ也舌を巻カ
 けて云フ外そレ由急高賣乃繁昌ハ及不及ハ火事
 病氣ト忽問ハあハ云フ是皆鐵道傳信機ノ功
 績ト云フ又山國では是迄運送ノ不便ナルト云
 出来

金、産物も捨置ク骨を折ラぬ場所カ云フ云フ云フ
 ガ鐵道傳信機カ出来運送ガ自由ナラシメバ我勝ル
 骨を折リ産物を積出カ工夫ヲササヒ自然産物
 も殖エ民百姓も饒富シキ理シク且馬の脊を以
 ト運送スルトモ鐵道ノ方カ云フ安賃錢云フハ
 かのつわら産物乃直段ト下流カ云フ云フ云フ
 此等を考ヘタル鐵道傳信機ハ國を富シ民を饒
 富シ云フハ必用之物ト云フ云フ人カ云フ云フ
 鐵道傳信
 機カ出来云フハ商人ノ儲カ云フ云フ高賣ガ衰微カ

るとは沙汰乃かきり謀みあき、口が閑げせせん
何故とらふ物乃相場とら物ハ時乃景氣不よろき
高下まゝ物みち中へ人力を以て自由みまゝりけふハ
ゆかぬおとておぎる壁へハ豊年ハ誰も米の直段ハ
追々下落するまゝ人と考へるよ米所持乃人ハ我
勝不賣ら人事を競ふ是不於米相場ハ益々下落
いへ外凶年ハおきおかり追々米が拂底不ぢぢ
と思ふゆゑ人々蔵へ積込おき高直を待て賣出
さんといふきや益々あつちぢぢき進ば何進乃土地ハ

るも品物が澤山おき賣人が多き進ば直段乃下落ハ
必定乃おとておぎる尤鉄道傳信機が出来進ば是迄
とかかり日々諸方の相場が去進るゆゑ買人乃集り
方も自然おちぢぢせゆゑ相場高低乃間乃日数も
是迄乃中々永くおださる外まひさ進ども商人が平
常心ハ油断おき諸方の氣を配りよく勉強せん
まば萬事便利のよキ、おちぢぢ昔より儲ハお不多
あまべき苦ておぢぢ且高賣とりよとのハ千兩乃高ハ
を一度一々百兩乃利を得るよ千兩乃高ハ十度

一、百兩乃利を得る方が品物乃賣方もよく金銀
 の融通もよき理不々如何程當人の為不々るか志
 ませんそををさきまの商人一年一度か二度の高
 賣をち一際不濡手て粟を儲むやうなる儲をせ
 めやうといふ懶惰者の多かり事だがよきか
 そんを手ぬるきおとでい間不合ぬやよかのづと商賣
 不勵む心あやう一年不百度も二百度も高賣をする
 やう不やうませうさきま品物乃賣方もよく又金銀
 の融通もよくなる理合あう獨り商人の幸ひでい

ちく天下一般の幸福ていさやうませんかちせその源を
 考へせハ鉄道傳信機の法益ておさう
 舊平

段の法理解誠不感心しつゝま一た實不足下乃法活
 乃通り當時政府の法政事とら少もの皆民百姓我
 乃安穩不暮なき金錢が沢山儲つゝ沢山歡樂乃出
 来るやうあまの法趣意だといふあとい了然とさか
 も夢の覺とやう不思ひせし今迄ハ人々道理不
 る事ハ露を以只當時の事ハ皆異風とて悪

さしとくのみ思ひ政府の法政道を彼是より上と
下を對しとも僻論を唱へしとけり今更々之
も恐入面目なき次第ておさる

開次序

僕の愚論が法胸小落きたかそせで去を僕も法話
中を甲斐があつとよろおをうおさる今の世の中の風
俗とつよもの唯まろ澤もろかろは昔昔も事
を悪くつひ當時に流行を真似る人杯が多い乃不足
下い心底天子様の為を思ふとろろかろ新規乃物事

をさるいものと思ひは彼是法論といひ聞らせし事
ておさるそせが僕の話が法胸小落入り以前
の法論を棄て去るひあきつと所い真小日本人乃象
のく貴い法心感心いしきとそあて段々法話の様を
マけどかろ銘々皆政府乃法趣意を守り勉強さへ
せバいか程面白樂しき出来い糸程貴き身分小
あつとせらるるあつとあつとナン一 舊平君よく考へてえきハ
涙乃流せらるるほど有難法時序てハおさる人か

開化問答卷下終

明治七年三月新刻

日本橋通三丁目

丸屋善七

須田町

富城屋藤兵衛

同

和泉屋 甚右衛門

東京書肆

